

第10回 六角川水系流域治水協議会 議事概要 (兼 六角川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会)

1/3

1. 概要

今回の協議会では、流域治水対策行動計画の取組状況、各実務者会議の実施状況、今後流域で議論すべき課題等について協議・共有した。

2. 実施状況

- 日時：令和8年5月22日（金）14:00～15:30
- 開催場所：武雄河川事務所
- 参加者：多久市長、武雄市長、小城市長、大町町長、江北町長、白石町長、佐賀地方気象台長（代理）、九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所長（代理）、九州森林管理局（欠席）、森林整備センター佐賀水源林整備事務所長（代理）、佐賀県（危機管理防災課長（代理）、農山村課長、森林整備課長、林業課長（代理）、まちづくり課長、下水道課長、佐賀土木事務所長、杵藤土木事務所長）、九州地方整備局武雄河川事務所長

3. 議事内容

- 1) 規約の改正について
- 2) 流域治水対策行動計画の取組状況について
- 3) 実務者会議の実施状況について
- 4) 今後、流域で議論すべき課題等について
 - ① 六角川と牛津川の合流点監視状況について
 - ② 排水機場の能力強化について
 - ③ フラップゲートからの逆流防止対策について

4. 規約の改正について

「六角川水系流域治水協議会」及び「六角川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会」に関する規約改正案について、事務局より説明。規約改正について委員了承。

5. 流域治水対策行動計画の取組状況（各機関の報告内容のうち、主な取組を抜粋して記載）

（河：武雄河川事務所、県：佐賀県、多：多久市、武：武雄市、小：小城市、大：大町町、江：江北町、白：白石町、気：佐賀地方気象台、農：九州農政局）

- 【河】六角川水系では、河道掘削、ヨシ繁茂抑制対策、高橋排水機場の増強を昨年度までに完了。R8年度も引き続き六角川洪水調整池の整備、流域水害対策の推進、牛津川の築堤、遊水地整備及び牛津川中上流部の掘削を実施。
- 【県】「プロジェクトIF」の取組として、内水監視カメラや水位計・浸水計の設置。ケーブルテレビ事業者への内水カメラ設置補助等も実施し31ヵ所運用。R7年度は9河川で約5,000m³の堆積土砂を除去。R8年度も11河川で浚渫予定。田んぼダムの拡大やクリーク事前排水、排水機場の耐水化、排水ポンプ車の配備などに取り組む予定。
- 【多】R3年度からR8年度にかけて、市管理河川19河川において浚渫工事（計5,200m³の河川土砂掘削）に取り組む。また、クリーク・ため池の浚渫による貯留機能の確保に加え、ため池の劣化状況調査および性能評価を実施。さらに、R5年度までにため池ハザードマップを作成し、R7年度には多久市防災ハザードマップを作成、今年度に全戸配布を実施。
- 【武】流域水害対策計画を基軸に、気候変動対応モデル都市構想(R7.5)、総合治水計画(R7.8)を策定。整備期間概ね20年で、R3.8豪雨に対し床上浸水ゼロを達成目標に掲げる。ためのプロジェクトとして、遊水公園、地下貯留施設の整備、ため池活用、事前放流及び田んぼダム推進等で100万m³以上の貯留容量確保を目指す。また、東川高頻度洪水対策として排水路改修、ポンプ設置、国道嵩上げ及び排水機場操作見直し等を関係機関と連携して取り組む。中小事業者等浸水被害防止事業費補助金を新設。
- 【小】R7年度に集団移転先の造成工事が完了。雨水を貯める対策として、クリークを活用した雨水貯留容量の確保、田んぼダムの拡大及び排水路のライニング等を実施。また、老朽化による整備・更新が必要な排水機場7施設のポンプをR6年度より順次更新中。防災行政無線の更新や防災支援システムの整備を行い現在運用中。
- 【大】空洞化に伴う排水路の補修、ため池の低水管理及び水路の事前排水を実施。境川樋管・現場樋管への排水ポンプ新設、仏法・宮浦ため池の洪水調整機能強化を実施中。また、日本レスキュー協会「MORE WAN」との連携及び防災無線と「防災ネットあんあん」を連動させた情報発信（多言語）を行うなど、ソフト面の強化にも取り組む。 1

第10回 六角川水系流域治水協議会 議事概要 (兼 六角川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会)

2/3

5. 流域治水対策行動計画の取組状況（各機関の報告内容のうち、主な取組を抜粋して記載）

（河：武雄河川事務所、県：佐賀県、多：多久市、武：武雄市、小：小城市、大：大町町、江：江北町、白：白石町、気：佐賀地方气象台、農：九州農政局）

【江】総合排水計画をR4.3策定し、クリーク事前排水とゲートの電動化を実施中。ゲート電動化は昨年度中に町内企業へ技術移転を行っており、順次ゲート操作の省力化を図り、事前排水の実効性向上に取り組む。また、全35地区でワークショップを実施し、地区防災マップが完成。R8年度以降はハザードマップの更新に取り組む予定。

【白】事前排水により町内の水路で、約680万m³の貯留量を確保。ゲート電動化や操作員の安全確保のための階段・手すりの設置を実施。住宅地の嵩上げに対する補助制度により、引き続き、水害に強い住まいづくり対策を実施。また、白石町防災カメラシステム「Minsai」を整備し、町保有のカメラに加え、国や県のカメラや雨量計、浸水センサーなど59カ所のデータを取り込み、R6年4月に正式運用を開始。

【気】5月29日から運用開始となる新しい防災気象情報について報告。線状降水帯に関する情報として、新たに「気象防災速報（線状降水帯直前予測）」と「線状降水帯予測マップ」を提供。従来の「顕著な大雨に関する気象情報」と「線状降水帯半日前予測を記載した気象情報」を、「気象防災速報（線状降水帯発生）」と「気象解説情報（線状降水帯半日前予測）」として提供。

【河】低平地を流れる六角川水系は、その地形的特徴や氾濫形態等が各市町で大きく異なることを踏まえ、それぞれが地域特性に応じた取組を着実に進められている。河川整備とまちづくりを合わせた取組、事前落水により洪水を貯める取組は、まさに流域治水と言える。引き続き、関係機関が連携しながら一丸となって取り組んでいきたい。

6. 実務者会議の実施状況（各機関の報告内容のうち、主な取組を抜粋して記載）

（河：武雄河川事務所、多：多久市、武：武雄市、小：小城市、大：大町町、白：白石町）

【河】排水機場の安全操作に関する実務者会議にて、操作体制確保に向けたワークショップを開催し、令和7年度までに全6機場でタイムライン作成。今後、実践的な訓練により継続的な体制づくりを進める。また、止水壁の設置、防災カメラ構築など施設環境改善にも継続して取り組む。

【多】牛津川遊水地事業の進捗に応じた実務者会議を実施予定。県河川庄川の内水対策として、県により新設された除塵機の稼動状況を確認。

【武】重点整備3地区の方々と、意見交換会を実施。R8年度以降も、国・県・市が連携して、各地区の流域水害対策に取り組む。

【小】牛津川右岸地域の内水氾濫を防ぐことを目的に、事前排水の連携強化のため、事前排水基準の擦り合わせを実施。R8年度以降も連携強化を図るべく協議を進める。

【大】大町町、江北町、佐賀県の3者で町東部地区の流域治水の取組の現状や課題、今後の計画や要望事項を共有。R8年度以降は国を交えた4者で協議を進めていきたい。

【白】昨年度は白石町事前排水マニュアルの説明、防災減災関連地方債の延長について情報共有。関係機関の連携強化のためR8年度も実務者会議を開催予定。

7. 今後、流域で議論すべき課題等について

（河：武雄河川事務所、農：九州農政局）

【河】六角川・牛津川の合流点における監視状況について、令和8年度も引き続き合流点の監視を実施予定。

第10回 六角川水系流域治水協議会 議事概要 (兼 六角川流域大規模氾濫に関する減災対策協議会)

3/3

7. 今後、流域で議論すべき課題等について

(河: 武雄河川事務所、農: 九州農政局、江: 江北町)

【農】施設の老朽化、近年降雨の状況を踏まえ、友田排水機場の能力強化を実施するため、排水先である牛津川への影響について報告。

【河】農政局の説明に関し、河川管理者としての立場で補足する。ポンプ増設については、地域の実情、家屋浸水のリスク、農地浸水被害など、そこに至るまでの過程の違いを踏まえ判断すべきである。例えば、河川水位が1m上昇するとすれば許可することはできないという判断になる。一方で、今回のようにリスク・リターンで考えた時に、影響量が少ない場合においては、この場にお集まりの皆様の理解をいただくことを前提に、ポンプ増設を進めても良いのではないかと判断し、農政局から説明していただいた。

今後、増強の相談があった場合は、その都度、水理計算によって河川への影響を確認して、河川管理者の考えを明確にしながら、皆様方と調整を図っていきたい。

【江】今回、流域治水協議会の場で、ポンプ増設に関して説明があったことは良かった。流域全体で問題意識を持ち、下流域への影響やその許容範囲の程度などを議論し、関係者に共有することは大切なことである。

【河】フラップゲートからの逆流防止対策に関して、ゲートへのごみ噛み込みによる逆流発生を報告。川裏水路に原因となりうるゴミ等が散見されるため、逆流防止対策の徹底を各関係機関でもお願いしたい。

8. その他（防災気象情報、洪水予報の変更について 等）

(河: 武雄河川事務所、気: 佐賀地方气象台)

【気】5月29日から運用される新しい防災気象情報提供に関して、警報注意報などの情報名や河川氾濫と大雨に関する情報の変更点について概要説明。

【河】洪水予報の変更に関して、レベル5氾濫特別警報(切迫)を新たに追加することを説明。

【河】別途、九州経済産業局の方から、事業継続力強化計画のパンフレットを配布しているので、不明な点等あった場合は、記載の問合せ先まで連絡していただきたい。

会議の開催状況

